



# The 45<sup>th</sup> Clayteam セミナー/EBIS ワークショップ

標準化が先導する社会実装

講演内容（ショートアブストラクト）※敬称略

## ●講演 1

「ナノテクノロジービジネス推進協議会と標準化活動」

横田 真 [一般社団法人 ナノテクノロジービジネス推進協議会事務局長]

ナノテクノロジービジネス推進協議会（NBCI）は、140社余りの会員企業のメンバーを対象に、分科会・講演会などの開催を通じた情報の共有及び意見交換の場を提供しているネットワーク機関です。2020年8月の着任以降、私が2年余りの間にNBCIで取り組んだこと、実現できたことなどを紹介するとともに、現在私が感じているNBCIの存在意義及び可能性についてお話をします。標準化活動については、経済産業省時代に経験し、考えたことも交えながら、NBCIとしての活動状況についてご紹介いたします。

## ●講演 2

「ナノオブジェクト細胞影響評価試験法の標準化戦略」

岩橋 均 [岐阜大学応用生物科学部 教授]

ナノオブジェクトとは国際標準化機構（ISO）の規定によると1~100nmの大きさの断面を持つ物質である。ナノオブジェクトは、微細物質に比べて比表面積が圧倒的に大きいことからヒトの健康や環境生物に及ぼす影響が懸念されている。我々はこれまでに、①培地分散液の安定性②不純物を含めたナノオブジェクトを構成する成分の溶出、③ナノオブジェクトによる培地成分の吸着、③履歴に依存したナノオブジェクトの汚染、の少なくともこれら4要素について生体影響評価と同時に評価が行わなければ、信頼できる結果が得られないことを示した。これらをまとめて、ISOに提案しISO/TS19337として出版しており、現在は当該TSのIS化に取り組んでいる。

## ●講演 3

「2023年度に始動するナノマテリアル試作・評価プラットフォームのご紹介」

後藤浩平 [産業技術総合研究所 東北センター 所長代理]

産総研東北センターは、東北の地域資源であるナノマテリアルの用途展開・地域の産業競争力強化に寄与すべく、ナノマテリアルの評価及び測定方法等の標準化に機能を重点化していく方針である。令和3年度補正予算を受けて、ナノマテリアル試作・評価プラットフォームを産総研東北センターに整備中であり、2023年4月の開設を目指している。本プラットフォームでは、これまでに産総研が開発した基盤技術や企業・大学等との共同研究によって蓄積した知見やノウハウを核にして、域内企業等が開発した材料の評価を行うとともに測定方法の標準化を行い、開発したナノマテリアルの特性値を全国のユーザーと情報共有しサプライチェーンの構築につなげる。本講演では、具体的な整備機器や利用方法についても言及する。

## ●講演 4

「クレイナノプレート標準化サービス」

蛸名武雄 [産業技術総合研究所 東北センター 所長]

ClayteamではISOのナノテクノロジーに関する技術委員会であるTC229において、クレイナノプレート製品の標準化を行い、かかる規格文書ISO/TS21236-2を出版した。現在Clayteamの分科会であるナノマテリアル規格認証委員会(CSCN)では、本製品および関連製品の市場拡大を見据え、世界に先駆けて認証制度の創設を目指している。本講演では、本規格文書に基づいて、今年度CSCNが開始する標準化サービスについて紹介する。